

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホーム四つ葉のクローバー (ひまわり)		
所在地	奈良県宇陀市菟田野古市場481		
自己評価作成日	令和3年7月26日	評価結果市町村受理日	令和3年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア		
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号		
訪問調査日	令和3年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた地域性もあり、ゆったりとした家庭的な環境づくりを意識しながらサービスの提供を行っています。近隣在住のスタッフも多い事もあり、生活への不安を少しでも軽減できるような対応や個々の生活が向上するよう常に意見を出し話し合っています。また、クローバーの関連事業所との連携や系列の辻村病院を中心とした週1回の往診、訪問看護ステーションの定期訪問と臨時訪問、往診日以外での受診、グランソール奈良の歯科診療・口腔ケア訪問等協力医療機関も充実しています。
入居者様や家族様にこの四つ葉のクローバーが「生活の場」として信頼して頂ける施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中、日常の暮らしの継続を意識した支援を行っておられます。週1回のお食事のメニューは入居者のリクエストを尊重し、食材の買い出しや準備、後片付け等にも参加するなど、それぞれが役割を持って生活されています。
コロナ禍においても、安全面を確保しながら、外出支援やレクリエーションも継続して行われています。系列の病院との連携がしっかりとされ、体調不良の早期発見や体調変化への対応がスムーズに行われているため、入居者や家族の高い安心感に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の定期カンファレンスと必要時のカンファレンスを通じ、入居者様に対するケアの在り方が理念に沿った内容であるかどうかを日々のケアを通じて話し合っている	ホーム入口にグループ理念、ホーム独自の理念を提示しています。月1回の職員向けの月報にも、ホーム理念の中から抽出した内容を掲載することにより、職員への浸透を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年以降は特に難しい状況となっているが地域清掃や地域でのお買い物などを通じてできる範囲内で交流を行っている	近所のコンビニや直売所に定期的に入居者と買い物に出向かれ、挨拶やお話をする機会を持たれています。コロナ以前は、年2回の自治会主催の清掃活動にも職員が参加し、地域との交流をされていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空床を利用し、ショートステイの利用も募集し、認知症の家族様の一時的な負担軽減などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため実施できていない	運営推進会議は、コロナ後に何度か計画されたものの、感染状況を鑑み中止となり、開催出来ていません。以前は、市職員、地域包括支援センター、ご家族、民生委員とホーム職員、法人本部も参加し、活発に意見交換をされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは必要時に連絡をとらせて頂いている。介護保険についての質問や事故報告等も行っている。	介護保険の改正点などについては、電話等を利用し、必要な情報を得ています。コロナワクチンのホーム内接種等についても、スムーズに実施できるよう、メール等で連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要性については入所される前から情報の収集を行い、最低限の拘束に留める説明を行っている。基本的には拘束をしない方針を掲げているがやむをえない場合は家族様に必要性と方法を説明し、ご理解を頂いている。入所契約時は身体拘束が必要であれば同意書を頂いている。 玄関・各フロア・裏口は無施錠。門扉については家族様からの要望も強くホーム内から施錠できるようにしている。	身体拘束をしないケアを心掛けています。必要時は、しっかりとご家族にも説明し、同意を得ています。拘束を行った場合は、定期的にケアを見直し、拘束をしない取り組みを実施。過去の拘束事例2件についてはケア内容を変更し、現在のところ身体拘束はありません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不穏や暴言など精神的ケアの必要な入居者へのケアに対する職員のストレス軽減には「決して一人で対応しない」「チームケア」を徹底し、職員のストレスが虐待に繋がらないようカンファレンス等を通じ話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社、管理者の教育は行われているが職員への教育は出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行う説明のほか、その都度必要な説明や同意を電話や面談を通じて行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回ホームから家族様に向け、新聞を発行。入居者様の生活の状況を紙面や写真を通じて発信している	ホーム入口に意見箱を設置しています。毎月ホームの広報誌をご家族に送付。2か月に1回はご様子をお伝えする文書も掲載しています。メールやライン等も活用しながら、積極的に意見収集を行い、ホーム運営に活かしておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族様からの意見や要望については管理者・ケアマネージャーを中心に対応している。家族様からの意見・要望についてはその都度職員に伝達し職員から意見を聞いたり、対応の内容を情報共有している。	管理者との面談を年2回実施し、意見の聴取に努めています。また、ユニットリーダーが各職員と身近に関わることで意見を聞き出し、ホーム運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の希望を聞き、定期的に働き方について対話している。職員が自分の働き方に満足できる様な環境の整備を行っている。また、カンファレンス等を通じ、会社の方針や現状について理解が得られるよう説明を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、会社の取り組みとして個人で勉強できる教材をPC、スマホ等で学習できる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ショート利用者様の担当ケアマネージャー様等とホームの活動内容やサービスの質について相談や報告等の意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、お気持ちの確認を行い、安心して頂けるよう声かけを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で担当のケアマネージャー様と情報共有し、家族様の思いや不安を検討する。家族様との直接の面談の際には再度、思いや不安を伺い、ホームでの生活についてきちんと話し合い、お任せ頂けるような信頼関係を構築できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前にケアマネージャーからの情報をもとに、ご本人と家族様に面談し、現在の状況の聞き取りや今後のご本人、家族様のご希望を伺い、施設からの提案等も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の症状を理解し、どの様なアプローチを行う事がご本人にとって最善なのかを考え、寄り添う介護を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会の出来ない状況であるため、出来る限り認知症の症状の説明や体調の変化等お知らせし、理解を頂きながら家族様に代わって生活の支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会にも制限がある為、関係づくりは難しいが家族や知り合いの名前を思い出してもらえそうな会話に努めている	職員との会話の中で、馴染みの人を思い出して頂けるように配慮されています。面会は、現在ガラス越しで実施中。また、お買い物を楽しみにされている入居者に対しては、コロナ後も近所のお店への買い物を継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日常のお手伝いを通じて入居者間が共に楽しみ、協力しあう環境づくりをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者のフォローは出来ていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から意向や希望を伺うようにしている 聞き取りが難しい場合は本人の立場に立って検討し、実現に向けて対応している	日常のケアに意向を反映できるよう、ご本人やご家族から情報を収集しています。なお、ご本人への聞き取りが困難な場合は、意向を汲み取れるよう配慮されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から情報収集し、サービス提供の参考にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり方入居者一人一人の担当職員、その日に関わった職員の情報をもとに申し送りを行い把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日々の申しお送りをもとにケアマネージャーを中心にケアについて話し合い介護計画を作成し家族様の同意を得ている	少なくとも半年に一度はケアカンファレンスを実施し、計画の見直しが行われています。ご家族やご本人より日常から心掛けて意見聴取を行い、ケアに反映しています。月に1回のモニタリングで、実施状況の確認もしっかりと行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	令和3年からタブレット入力に変更し、PCで管理している。情報が一元化され、介護計画の見直しや多職種間への情報提供もしやすくなっている ただし、緊急性の高い申し送りや入居者以外の事例に関しては既存の記録表も使用し情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況も多様化している為、なるべくニーズに合うような提案ができるよう、施設内、担当ケアマネージャーと協議を行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握に努め、入居者が満足できる生活支援の実施を心がける		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医について話し合い、特に専門治療を必要とした場合は継続して受診してもらう また系列の辻村病院の往診も受けて頂きながら適切な医療を受けられるよう体制を整えている	内科については、系列病院の往診で対応されています。精神科等の他院受診時には、ホーム職員が送迎を含めて同行し、適切な情報提供を行っています。訪問看護と歯科医衛生士の往診が毎週、歯科医の往診も月1回あるなど、医療面が充実しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していませんが隣接の訪問看護ステーションと医療連携しており、柔軟に対応できる体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから、辻村病院と連携しており、特に入退院時は地域連携室を中心にカンファレンスを実施し情報共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	辻村病院を中心に関連事業所間で看取りについての勉強会もおこない、前向きに検討している 家族様にも当施設が看取りについて取り組んでいる事の説明を行っている 重要な課題となっている	同グループの各施設で看取りチームを結成し、法人として、看取りをしていく仕組みづくりを構築中です。医療連携もしっかりと図れる体制づくりがなされており、系列特養での看取り事例等を参考に、希望があれば、ホーム内での看取りができるように調整中です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については訪問看護や往診時の医師の指導を受けている またカンファレンスを通じ話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し災害に備える準備をしている	消防署等に確認しながら、年2回の訓練を実施されています。消防署からのアドバイスを受け、夜間想定訓練実施や施設内での避難など、施設の実情に合わせた訓練を予定されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから職員がお互いの言葉や対応を観察しプライバシーを損ねるような態度があった時は注意したり、管理者が気付いた時は直接声をかけるようにしている	入居者の尊厳を守れるよう、特に着替えや排泄の場面には気を付けてケアを実施されています。不適切なケアや声かけがあった場合には「どうしてだめか」の理由までを説明し、職員に注意をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂ける対応につとめている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合が優先されがちな状況が来ないようにその都度、お互いが注意しあえる環境を作り入居者の対応を行うよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択できる声かけや出来ない方には職員がご本人に代わって身だしなみやおしゃれができるよう提案している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはキッチンと一緒に入り、調理、盛り付け、洗い物、片付けなどを行う機会がある	毎週土曜日は、業者からのメニューを発注せず、入居者の要望を中心にメニューを決定し、調理されています。その際の買い物は入居者と行かれたり、普段から後片付けや準備等、出来る方にはお手伝いをしてもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記載しながら1日に必要な水分量の確保を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは実施できている また、隔週1回は歯科衛生士の口腔ケアを受ける事ができる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や時間の感覚を把握し排泄を促している	タブレット端末を利用し、排泄チェック表で入居者の排泄のサイクルを把握し、適切に介助できるようにされています。ご本人の身体能力に合わせて、無理なく、心地よく排泄できるような支援に努めておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、水分摂取量、お薬の処方等で便秘の予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前か午後の入浴になっており、夕食後の入浴時間は設けていない 夕食後の入浴時間を設ける事で安眠に繋がる可能性もあるが様々な点を考慮すると難しい状況にある	週2回の入浴を基本としながら、入浴日をあらかじめ定めるのではなく、ご本人の体調や精神状態に合わせて、午前と午後を実施しています。ご希望されれば、夕食後の入浴も頂けるよう、体制づくりを行っている最中です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適切な環境や夜間の定期的な排泄の確認を行い清潔を保つ事で安心して休んで頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指示のもと適切に服薬できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を参考に今できる事を積み重ね役割として活動できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出・外泊支援は自粛しているが施設周辺の散歩や日光浴は継続して行っている	食材の買い出しには、希望される入居者と近所のお店に出掛けています。大規模なイベントや外出については、コロナ後は自粛中ながら、近所へのお花見や施設敷地内での散歩等は継続して実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持した生活は行っていないがスーパーでの買い物に出かけた際にはお金の受け渡し等を行って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのお話は常にできる状況にあるが手紙についてはお身体の状況から難しい状況にある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内に入居者と共同で制作した作品を展示したり、空調の設備や明るさなど入居者様が過ごしやすいような環境になる様心がけている	入居者と職員で一緒に作成された作品や、外出した際の写真等を共用空間に飾られており、親しみやすい雰囲気づくりをされています。空調や明るさも入居者が過ごしやすいように気を配られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	症状により一人になりたい時には個室を利用し過ごして頂いている 共用空間ではパーテーションなどを利用し対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物品(筆筒やテーブル・イス)などを持ち込み、自由にご利用頂く事が出来るよう家族様とも相談しながら居室づくりに努めている	ベッドや衣類のケースは各居室に標準装備されています。ご自宅で使用されていた家具やタンスなども持ち込み頂けることを入所時に説明され、慣れ親しんだ環境に近づけられるように努めておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が理解できるように建物内部に張り紙などをし、職員と一緒に考えながら生活できるようにしている		